

「*Choju*」だより

株式会社エース・E&L
代表取締役社長 津田 博通

【三味線を弾くオーバーチャン】

「*Choju*」は、2016年11月販売開始以来、様々なお客様のご意見や困っている問題を解決すべく対応して参りました。今回は、85歳で耳が遠くなった三味線のお師匠様のお話です。

85歳のIさんは、頭がはっきりしていて、体も元気です。ただ耳が聴こえなくなり、家族と会話が難儀です。息子さんもお嫁さんも口到手を当て大声で話をしていますが、ほとんど聴こえていません。Iさんは近くの高齢者支援センターで「*Choju*」のカタログを見て、お嫁さんが会社に電話をしてきましたので、すぐ「*Choju*」をもって自宅を訪問しました。

とりあえず、耳に装着されている高価な補聴器を外し「*Choju*」のイヤホンを両耳に差し込み、聴こえ具合をチェックしました。Iさんは、左耳の聴こえが悪く、音量を小から中に上げながら、更に左右調整のつまみを、左右の聴こえのバランスが取れる様に調整しながら音量を上げました。中の4くらいで、ニコッと笑みが出ました。聴こえたのです。

Iさんに聴こえが戻りましたが、息子さんもお嫁さん依然として、大声で話をするので、「もう静かに話をして大丈夫ですよ」と言いました。このようなことは、難聴者の家族では良くあることです。時々、聴こえが戻った方に家族が相変わらず大声で話をするので、家族喧嘩になります。

この状態でしばらく雑談していましたが、突然三味線を持ち出し、音律の調整を始めました。

Iさんは、三味線のお師匠様を長年やっていたそうです。三味線の音律を調整するとき、以前から使用している補聴器をつけたり、「*Choju*」に変えたりしていました。私は音律のことは全く分かりませんが、ピアノを弾けるお嫁さんが補聴器をつけたときと「*Choju*」をつけたときで、音律の違いが分かったようで、「*Choju*」をつけたときが正しい音律だと言ってくれました。

とりあえずこの状態で2週間貸して欲しいという事で、お貸ししました。しかし2日後にイヤホンが耳に合わないという事で、イヤホンをお持ちしました。標準より長いイヤホンがぴったり合い、聴こえが良くなりました。しかしこの時、TVの音声が聴こえにくいことがわかり、翌日TVタイプの「*Choju II*」をお持ちしました。TVタイプは、TVのイヤホンジャックにFM送信機を差し込み、この音声を雑音なしで、「*Choju*」に無線で届けるものです。5m近い距離であれば、雑音のないきれいな音声が耳に届きます。家族とおしゃべりしながらTVを見ていても、TVドラマのセリフがしっかり耳に届きます。この変更でIさんの聴こえは、完全に問題なしに変わりました。

約束の2週間目に自宅に伺いました。聴こえが改善されたかどうか楽しみでしたが、TVの音声が聴こえが悪いことがわかりました。TVのイヤホンからの音量が小さかったようです。「時々音は聴こえるけれど、声が聴こえない」と言われました。このため、TV側のイヤホンの音量を少し上げたところ、声が聴こえると笑顔で言われました。

脳にきれいなアナログの音声が届けば、脳が「アイウエオ」の音声の認識を取り戻し始めたことになります。アナログの音声は、昔聞いたレコードの音声です。補聴器はデジタルの音で、「音は聴こえても声が聴こえない」と言われています。

Iさんは、代金を自分の財布から持ち出して支払いをしてくれました。満足そうな顔でした。

以上